

出店者も継続ができるよう利益も必要であると思われるが、今後行政として、どのように考えているのか伺う。

答 (永田地域振興課長)

まちなかにぎわい創出事業は、3月10日にHATTIオープニングイベントとして、マルシェを開催しました。30代を中心に子供を含めて65名の来場があり、町内6割、町外4割と周辺市町の他に高山市や愛知県からもお越しいただきました。また、アンケート調査を行った結果、今後の期待として、年齢層や商品等、目的を絞った企画や体験できるイベント・教室の開催など、定期的に開催して欲しいといったご意見をいただきました。

今後店舗を運営していくためには、当然利益も必要となります。町としては、小規模に起業できる場を提供することや異業種を組み合わせたチームを作り、来年度以降も持続可能な事業ができるようなワークショップを開催するなど、外側からの支援をしていきたいと考えています。HATTIでの開催を拠点として、町の商店街を散策できるようなイベント等のコラボができると思いいます。町の特産品を1箇所販売できる場所を考えたかどうかというご意見もありますが、600m弱の本町通りを散策していただき、

それぞれの店を堪能していただくことで、町に賑わいが生まれるものと思います。



HATTI

商店街空き店舗再生事業について

問 商店街空き店舗再生事業補助金についての説明を伺う。

答 (永田地域振興課長) 商店街空き店舗再生事業補助金は、従前にお店として活用されていた店舗部分を第三者が新たに活用する際、その空き店舗の改修及び修繕に要した経費の2分の1に相当する額として、100万円を上限に補助することにより、八百津町における空き店舗の活用及び商業の活性化を図るものとして事業を開始します。

特産品の一箇所での販売について

問 八百津町でもイベントを行っている産業文化祭は近隣市町村からも関心をもって足を運んでいただけるなど、非常に魅力ある町だと思っている。

今後、5年、10年先を見据えると、町外からも国道418号を使い、西から東へと通られる方も非常に多くなると期待をしています。ふるさと納税ひとつをとっても、返礼品はすべて当町のもので出せるぐらいになっているので、町のブランド品が1箇所ですべて揃っている場所があっても良いのではないかと。町長はどのように考えてみえるのか伺う。

答 (金子町長)

交流が大切であるという話が出ておりますが、新丸山ダムや杉原千畝記念館等へ町外から来ていただいた方が1箇所で購入をして帰られると、その場限りで終わってしまうような気がいたします。あくまで町の中を歩いていただく。また、それぞれの地区で色々な事業を行っておりますので、それに合わせて来ていただくのも、ひとつの考えではないかと思えます。産業文化祭の2日間だけでも大勢の方に来ていただくのも大きな事です。町の中を歩いてもらうバスや車から降りて歩いてもら

い、八百津町を知ってもらおう。それが移住・定住にも繋がっていくと思えます。

町の特産品を商店の方が多数集まって販売することは、運営方法など調整が難しい面があります。5年、10年先を見据え、とにかく町を歩いてもらいたい知ってもらおう。色々な場所で買物をしてもらおうというのを考え、今後進めていきたいと思っております。



柘植清貴議員

Q1 農業の振興について

農業委員の活動状況について

問 農業委員会委員は、新制度のもと、昨年7月に改選され、農業委員と新設された推進委員により、農地利用の最

適化活動を推進するもので、その制度と体制は大変重要であると思っている。新制度になり、まだ日も浅いが、大きな柱となっている耕作放棄地対策について、その活動状況と成果について伺いたい。

答 (秋松農林課長)

新制度のもと改選された農業委員会については、平成29年度の農業委員会制度の改正に伴い、従前の公選制を廃止し、農業委員については町長の任命により、新たに設置することとなった農地利用最適化推進委員については農業委員会の委嘱により、それぞれ選任することとなりました。

当町も7月20日改選に伴い、新たな農業委員会となり、農業委員14名、農地利用最適化推進委員6名の計20名による活動が始まりました。

平成29年度の活動状況につきましては、町は農地転用などの議事を審査する農業委員会に推進委員の出席をお願いしており、委員会を7回開催し、8月の委員会後には、農地パトロール出発式を実施し、委員全員で町内の農地の状況を視察しております。これは9月から11月までの期間に、各委員がそれぞれの担当区域の農地利用状況調査を行い、担当地区内の遊休農地等を把握していただくとともに、農業委員会事務局へ報告していた